

渡辺悦司・遠藤順子・山田耕作『放射線被曝の争点——福島原発事故の健康被害は無いのか』
緑風出版（2016年刊）正誤表

2017年8月20日現在

3 ページ上から 4 段落目の 6 行目
反省の上立って → 反省の上に立って

4 ページ上から 2 段落目の 4 行目
東京原発福島第一原発 → 東京電力福島第一原発

15 ページ上から 2 段落目の 5 行目
チェルノブイリ約 4 割 → チェルノブイリの約 4 割

15 ページ下から 2 段落目の 4 行目
放射線被曝による → 福島原発事故の放出放射能による

22 ページ (2) の項目の②の 2 行目
その後固化して → その後、固化して

31 ページ表 4 の下から 2 行目
マンガン Mo → マンガン Mn

46 ページ 2 段落目の 1 行目
同報告には前ページ別図 (図 2) が付いており → 同報告には「別図」(前ページ図 2)
が付いており

60 ページ表 9 の 3 行目「耳鼻咽喉」の項に「難聴」を追加する

84 ページ上から 2 段落目の 1 行目
無知によるものなか → 無知によるものなのか

95 ページ下から 2 段落目の 1 行目
三体核分裂 → (ウランの) 三体核分裂

96 ページ一番下の段落の 6 行目
UO₂ の三体核分裂反応 → 核燃料に UO₂ の形で含まれるウランの 三体核分裂反応

120 ページ一番下の段落 2～3 行目

(政府発表で 10 分の 1 あるいは 5 分の 1) とする政府の評価 → とする政府の評価 (ヨウ素 131 で 10 分の 1、セシウム 137 で 5 分の 1) (下線部の位置を入れ換える)

125 ページ上から 5 段落目の 2 行目

射程距離の短い → 飛程の短い

126 ページ 1 版下の段落の 2 行目

1 億人が 1mSv 被曝 → 1 億人が 1mSv ずつ被曝

127 ページ表 1 の項目の 5 行目、

BEIRVI → BEIRVII [2005]

129 ページ図 1 の 3

DDREF モデル → DDREF=2モデル

134 ページ上から 1 段落目の 7 行目

の代表、 → の代表 (野口邦和氏)、

同 8 行目

の代表委員の → の代表委員 (児玉一八氏) の

144 ページ上から 3 行目

67%以上増加 → 25%以上増加

158 ページ表 7 の「計算方法」の列の「計算方法」の項の 6 行目

1.67 倍の 8.4mSv/年 → 5/3 倍の 8.3mSv/年

同「1mSv」の項の 3 行目

2mSv/年 → 1.7mSv/年

162 ページ上から 2 段落目の 4 行目

本書第一章第 2 節 (3) 図 2 → 本書第 1 章第 2 節 3 図 2

同ページ上から 3 段落目 7 行目

本書第一章第 2 節 (3) ～ (6) → 本書第 1 章第 2 節 3～6

170 ページ「チェルノブイリとの比較」の項の 2 段落目 4 行目
10 の 15 乗倍 → ベクレルの 10 の 15 乗倍

173 ページ表 10 の表題
事故時残存量 → セシウム 137 の事故時残存量

同「汚染水中②」の「推計の出典」の列
海老澤・澤井 → 青山・海老澤・澤井

同第 3 列の表題
福島セシウム 137 の存在量と放出量 → 福島（下線部削除）

同第 3 列の「汚染水中②」の箇所
276 → 200～276

174 ページ一番下の段落の 2 行目
認めている。 → 認めている （原子力安全・保安院 [当時] の 2011 年 8 月 26 日の発表）

178 ページ表 12 脚注の 3 行目
国際原子力指標尺度 → 国際原子力事象評価尺度

同その下にある注の 6 行目
いずれにしろ → これらの平均値は大まかな近似値として相対的な意義しかもたないに
しろ

同本文の上から 1 行目
同比率の → 同比率は、

同本文の上から 2 行目
実測数値、 → 実測数値に基づくものであり、

179 ページ一番下の段落の 4 行目
かどうかという染ことではない → かどうかということではない （「染」を削除）

194 ページ下から 8 行目
40%過小に評価できる → 40%過小に（つまり 60%に）評価できる

同ページ下から 4 行目

1.67 倍 → 1.67 （下線部削除）

197 ページ上から 2 行目

被曝線量は最低でも → 被曝線量は、最低でも

210 ページの⑩の項を以下の通り差し替え

→ 福島県立医科大学附属病院の患者統計で、2010 年度に比して 2012 年度までに被曝との関連性が指摘されている一連の疾患の診療実績の増大が記録されている。白内障・水晶体疾患で 1.70 倍に、急性心筋梗塞・心不全で 2.24 倍以上、頻脈性不整脈で 1.27 倍、弁膜症で 2.21 倍、肺がんで 1.22 倍、非外傷性頭蓋内血腫で 2.25 倍、頭頸部悪性腫瘍で 1.05 倍、小腸の悪性腫瘍で 3 倍、骨軟部の悪性腫瘍で 4.44 倍、膀胱腫瘍で 1.57 倍、非ホジキンリンパ腫で 1.55 倍、甲状腺の悪性腫瘍で 1.33 倍、がん全体で 1.15 倍、扁桃炎・急性咽頭喉頭炎で 3.54 倍など疾患や健康障害が福島原発事故以降急増している。

新生児疾患・先天異常では、妊娠期間短縮・低出産体重に関連する障害で 1.25 倍、心室中隔欠損症で 1.17 倍以上、手足先天性疾患で 1.5 倍以上（2011 年）、滞留清掃で 2.25 倍以上に増加し、遺伝的影響が現れ始めていることが示唆されている。

以上、厚労省の DPC 統計の 2010 年度の不備（年間ではなく 9 ヶ月分の統計となっている）を補正した場合の数値を列挙した。 （下線部は変更追加箇所）

213 ページ上から 2 段落目の 7 行目

レベル → とされているレベル

225 ページ上から 1 行目

本章第 4 節 (6) の⑩ → 本章第 4 節 6 の⑩

230 ページ下から 4 行目

三原則による → (自主・民主・公開の)三原則による

239 ページ第 2 節の表題下の小見出し

原則』→原則 （二重カッコを削除）

243 ページ上から 2 行目

焦げが突き出したら → 焦げが付き出したら

同ページ上から 4 行目

入れてれ → 入れて（下線部削除）

246 ページ上から 2 行目

できたかを知れない → できたかも知れない

249 ページ上から 9 行目

はじめ反戦老人クラブの皆さん → はじめ「反戦老人クラブ」の皆さん（カギ括弧を付ける）